林業普及現地情報
2022-26号（通算459号）
令和４年12月15日
一関農林振興センター
記述者　後藤幸広

一関地区伐木技術普及研修の実施について

１　はじめに

林業における労働災害の発生件数は高い水準で推移しています。本県においては、林業での死亡災害が令和３年に５件、令和４年（７月時点）で３件発生しており、伐木作業におけるかかり木処理に起因する事故が多くを占めます。

このため、労働災害を未然に防止するための伐木作業の安全意識及び安全で正確な伐木技術の向上が求められています。

一関農林振興センターでは、管内の林業事業体で伐木作業に従事する技術者を対象とした伐木技術普及研修会を開催しましたので、その概要を報告します。

２　研修内容

令和４年11月29日（火）に一関市大東町摺沢地内の一関地方森林組合事業本部の施設において、岩手県伐木技術指導員の武田一吉氏を講師に迎え、５事業体から技術者６名※の参加により実施しました。

(1)　チェーンソーのメンテナンス・目立て

武田氏から、チェーンソーの安全装置の役割、ソーチェーンの種類に応じた目立て方法の解説のほか、受け口や追い口の役割、つるの効果など、メンテナンスの重要性に加え、安全で正確な伐倒作業に関する講義をしていただきました。

【メンテナンス等の講義の様子】

(2)　伐木技術の基礎実習

長さ１ｍ、径30cm程度の丸太を用いた簡易な伐倒実習としました。

武田氏からは、主に、受け口づくりを中心として、チェーンソー作業が安全かつ正確な伐倒方向となる技術指導をしていただきました。

実習に当たり、受け口深さ、角度及びつる幅などの目標値を設定した上で、参加者が実際に作った受け口や目標とした伐倒方向との誤差を実測し、チェーンソーのガイドバーを水平に保持するコツなどの改善点を一人ひとりにアドバイスしていただきました。

３　おわりに

今回の研修は、伐木技術の基礎に重点をおいたプログラムとしました。参加者の経験年数は１年～10年であり、経験の浅い技術者からベテランまで経験年数に幅がありましたが、研修終了後のアンケートでは、ほとんどの参加者から、「非常に参考になった」、「伐倒技術の基本を再認識できて良かった」との回答をいただきました。

最後に、研修参加者には、研修成果を現場作業で実践していただき、会社の同僚やこれからの若い世代のお手本となっていただくことを期待しています。

【伐倒実習の様子】

※伐木作業の従事年数：１年が３名、２年、８年、10年が各１名